【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和３年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	唐津市立打上小学校
1　前年度 評価結果の概要	・コロナ禍のため、グループ活動や集会等ができず、学習や体力づくり、４校連携等への影響があった。しかし、それぞれの場面で様々な工夫をすることで対処できたおかげで、すべての項目で「十分達成」か「おおむね達成」と評価された。ただ、アンケート結果で、保護者と児童の意識の差が見られた。教職員・保護者・児童・地域の連携をさらに強め、学校教育目標の実現に向けて取り組みたい。
2　学校教育目標	学ぶ力とかかわる力を持ち　たくましく生きる子どもの育成
3　本年度の重点目標	①　学力向上「一人一台端末活用の推進」「創造性を育む学びの推進」　②　豊かな心「人権教育の推進」「考え、議論する道徳の実践」　③　健康・体つくり「立腰による良い姿勢」「早ね・早起き・朝ごはんの推奨」「外遊びの奨励」

4　重点取組内容・成果指標　／　中間評価　／　5　最終評価

(1)共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	B	・校内研やグループ研などを通して、全教員で指導の流れ、タイムマネジメント、ノートの取らせ方などを共通理解し、実践している。 ・なかよし学習を基本とし、人権的配慮や支援に重点をおいた授業を研究していたが、思考も重要視することも加味され昨年度との違いに少々とまどっている。 ・コロナ禍で、友だちタイムがこれまでのように十分にできていない。	B	・コロナ禍で制限のかかる中ではあったが、全教員で工夫しながら、統一された学習の流れで学習を進めることができ、児童に定着させることができた。 ・人権的配慮や思考を高める取組について全教員で研修を積み、徐々に理解が深まり、授業づくりの段階から意識して取り組めるようになった。 ・一人一台タブレットの利用を促してきたが、使用する場面等の共有が十分といえず、取組にばらつきが見られた。	A	・学習状況調査で、全国も県も県平均を上回ったとのことで、よくがんばっている。	学力向上（浜中） 校内研究（小形）
	◎自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	◎自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちがあると答えた児童80%以上	・ 行事や授業を通して、自分の夢や目標について考える場面を設ける。 ・「なかよし学習」を進め、毎時間振り返らせることで、達成感や自分の成長を感じさせる。	B	・制限された中でも体験的学習や運動会、児童集会、平和集会などの学校行事の後に、自分の目標に対しての成果・課題について振り返りシートに記述させている。 ・学習形態「なかよし」を全学年の児童が意識できるようになっている。特に授業の最後に「分かったことや感じたこと」を振り返らせ、自己を深めさせている。	A	・学習形態「なかよし」の定着が1年生でも図られるようになり、96%の児童が学習活動の流れを意識しながら、意欲的に学習することができるようになった。学習のふり返りでは自分や友達の考え方のよさを書いたり、次の目標まで立られるようになってきたりしている。 ・中学校の入学説明会や模擬授業を受けたり、小中の違いなどを聞いたりして、少しずつ中学生としての心構えについて考えるようになっている。	A	・地元の人材でキャリア教育や「打上学」に協力できる人材を探す協力をしたい。	進路指導（田代） 学力向上コーディネーター（鶴田）
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	●道徳授業の充実と支持的風土の学級経営により、人権意識や自己肯定感，規範意識の涵養が出来た児童80%以上	・道徳科の授業づくりに関する校内研修等の実施 ・児童の実態に合わせた内容を取り上げ、身近な問題として考えさせるようにする。	B	・Q－Uアンケートの結果をもとに、全職員で研修を行い、今後の方針や改善点などを検討した。 ・それぞれの学年の児童の実態を捉えながら、担任が授業内容をタイミング良く提示できるように、工夫をすることができた。	A	・年間計画に基づいて道徳科の授業を進めることができた。アンケートで、人権意識や規範意識の涵養が出来た児童が99%だった。 ・人権教室を、内容に合わせて1・2年生と3～6年生に分けて実施することができた。	A	・人権集会を参観したが、話す人の方を向いて話を聞く子供たちの姿勢に感心した。 ・工夫された道徳の授業が行われていると感じた。	道徳（永田） 生活指導部（諸岡）
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	●いじめ防止等（いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等）について組織的対応ができていると回答した教職員80%以上	・なかよしアンケートを毎月実施し、いじめの早期発見・早期対応に努める。 ・日々の児童観察を大切にし、アンケートに表れていない面についても、気になることの早期発見・早期対応に努める。 ・毎月の生活指導協議会で対応の仕方を協議し、組織的な対応を行う。	B	・毎月「なかよしアンケート」を実施し、気になる児童や行動を担任だけでなく、全職員で共通理解している。 ・「生活指導協議会」を月１回行い、クラスの課題や問題を抱えた児童の情報交換をしている。支援策などまで話す時間がないことが課題である。	A	・「生活指導協議会」で名前が挙がった児童をS.Cに繋げたり、S.Cに授業参観してもらい、手立てを助言してもらっている。S.Cを交えたケース会議を開く等、もっとS.Cの活用を行っていきたい。 ・なかよしアンケートの結果を全職員で共有することで、担任だけでは気づけない情報を得ることができ、指導が行き届くようになった。 ・生活指導協議会の内容を充実させ、支援や対策に時間をとることができるよう心掛けた。	A	・毎月、児童アンケートが行われており、きめ細かく児童の変化に対応されている。 ・以前、LINEによるトラブルがあったと聞いたが、全校の実態把握のためのアンケート調査が行われて良かった。	生活指導（浜中） 教育相談（宮嵜）
	○特別活動による自主的で実践的な態度の育成	○「よく見る・よく聞く・よく考える」を合い言葉に、学習や活動に真剣に取り組むことができたと答えた児童80%以上	・活動の前にめあてを確認し、意識させ、活動の後には振り返りの場を設けて、頑張りや協力の視点で発表させたり、まとめたりする。 ・授業中の友達の発言をしっかり聴くよう指導し、話す人も相手を意識させる。	B	・掃除や遊びなどのブロック活動を通して、上級生は下級生を労り、下級生は上級生を慕い、異学年誰とでも仲良くしようとする態度が育っている。 ・活動の終わりには、必ず、振り返りの時間を設け、頑張った人や児童の感想などを発表し合っている。 ・友達の発表の際には、発表者の方を向き、発言を聞き、発表後は拍手をすることができている。 ・自分の伝えたいことが、相手に伝わっているか確かめながら話す態度を身につけさせたい。	B	・ブロック活動や「Utube祭りでクラスの良さを発表しよう」などの児童会行事を通して、上級生も下級生も協力して、自主的に活動しようする態度が育っている。 ・「コロナ対策をしながらも団結して楽しい運動会にしよう」では、5,6年生が全員実行委員会を担当することで、責任感や企画力、伝える力などを育てることができた。 ・コロナ感染の影響で活動が制限されるのは残念だが、下級生も代表委員会や上級生の発言を手本に、発言の仕方や聞く態度を学んでいる。 ・発言するときに言葉足らずで自分の考えが伝わりにくいことがあるので、相手に伝わるように話す技能が今後の課題である。	B	・コロナ禍にあっても特別活動でいろいろな事に取り組んであり、力がついているようだ。 ・受け身的になりがちな打上の子供たちだが、主体的な行動がとれるよう指導してほしい。	特別活動部（吉田・岡本）
●健康・体つくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と考え、「早寝早起き朝ご飯」を達成できた児童80%以上	・保護者への啓発と児童への声かけを頻繁に行う。	B	・給食の残菜がなく、ほとんどの児童が時間内に食べ終わることができている。 ・朝食調査の結果94%の児童が朝食を食べている。早寝早起き朝ごはんを80%以上の児童がきちんとできている。	B	・給食は食べられる量を残さず食べることを各クラスで徹底されており、時間がかかってもきちんと完食する取り組みができている。今後は時間内に食べ終わることが課題である。 ・冬休みに生活カレンダーを配付したが、朝食を食べている児童は多かったが、早ね、早起きができていない児童が多かった。メディア利用も関係していると思いので、メディア利用についても併せて指導する必要がある。	A	・どのクラスも給食を完食しているようで、日々の取組が素晴らしい。	保健体育部（宮崎・宮嵜）
	○体力向上を意識した取り組み	○アンケートで「元気に外遊びや体力づくりができた」と答えた児童80%以上	・体育の行事や授業の中で、児童一人一人がめあてを持って体力向上に取り組むことができるようにする。 ・外遊びを日常的に促す。	B	・体育の学習においてはめあてを持たせ、目標達成のための支援や場の設定を行うことができている。ただし、コロナ禍の影響もあり、活動に制限がかかっているため、十分に体力向上のための取組が行えていない。 ・外遊びについては、現状、コロナ禍ということで、マスク着用などの声掛けを行っていることもあり、積極的な奨励は行えていない。児童の多くは外遊びをしている。	B	・体育の学習においても、引き続きめあてを持たせ、体力向上に取り組ませた。ただし、コロナ禍の影響で、体育の行事や授業に制限がかかり、体力向上のための取り組みが行えていない。 ・コロナ禍の影響がある中、マスク着用などの声かけとともに、外遊びを日常的に促した。「元気に外遊びや体力づくりができた」と答えた児童は95%と、積極的に活動している。	A	・コロナ禍にあっても工夫して授業されており、運動好きな子供が多くて良い。	保健体育部（田代・小形）
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 時間外勤務時間：月45時間以内、年360時間以内	・定時退勤日（毎週金曜）の退勤時刻を守る。 ・学校閉庁日の設定 ・業務の効率化と分散化を図り、質の高い業務内容を目指す。	B	・4～6月において時間外勤務時間が月45時間以内だった職員が67%、全職員の平均は43.9時間。 ・定時退勤日の退勤は、特別に用のない者は、守るようになってきた。 ・学校閉庁日3日間の実施ができ、教職員が休暇を取りやすい環境が少しできた。 ・業務の効率化・分散化を進めているが、毎年、新しい業務が加わっており、進めるのが難しい。	B	・4～12月、時間外勤務時間45時間以内を守れた割合が75%、時間外勤務時間の平均は35.9時間と改善されつつあるが、時間外勤務0を目指したい。 ・定時退勤日（1時間猶予で17:40まで）を守ることができていないことが課題である。 ・夏と冬の学校閉庁日の実施が確実にでき、休暇を取りやすくなってきた。 ・職員室・事務室等の整理を進め、更なる業務の効率化につなげていきたい。	B	・元気な先生でないと子供が不安になる。元気な先生でいてもらうため、休めるときは休んでほしい。	服務（教頭） 事務（横内）

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
○ICT利活用教育の推進	○一人一台端末活用の推進	○一人一台タブレットを活用できたと答えた児童と教師80%以上	・教職員間でタブレットの活用法を共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	B	・夏季休業中に教職員のタブレット研修を実施し、活用法などを学んだ。2学期当初、外遊びを控えた時期等を用いて積極的に触れる機会を設けたことで、児童はかなり使い慣れてきている。学習時の有効的な使い方等、実際に活用する中でノウハウを習得し、職員間で共有していきたい。	A	・一人一台タブレットを活用できたと答えた教師は67%で、日常的に活用はできていないものの、児童はタブレットを活用した授業に意欲的で、使い慣れている。日常的な利用に向けて、研修と教員間での情報共有の必要を感じた。 ・冬季休業後のコロナウイルスの影響で、タブレット端末の持ち帰りが必要になり、校内研修を行った。Teamsなどを集会で使ってきたが、児童が家庭で使いこなせるようにする指導が急務となっている。	A	・急激な変化に対応しなければならない先生方は大変だと思う。がんばってほしい。	ICT利活用教育（田代） 教務（小形）

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・　ほとんどの項目で成果指標が達成できた。また、中間評価から最終評価までに評価が上がったものが多く、そのうえ、外部からの評価でさらに良くなっており、児童や職員の頑張りが感じられる。しかし、そのために準備などに時間がかかり、働き方改革がなかなか進まないところが課題である。 ・　海青中校区人権・同和教育研究の3年目が終了した。本校児童に、どんな力が足りないのか、どんな力を付けたいのか明らかになった部分を元に、新しい校内研究を進めていく。 ・　コロナ禍において、一人一台タブレットの活用が急務である。そのための職員同士の情報交換と職員研修の充実を図っていく。